新規就農者増には研修制度の充実

飯島　悠介（ゆうすけ）　議員

問　農産物直売所　夢とりでは、農業と食を発信する大事な拠点である。現状と今後の課題は。

まちづくり振興部長　ＪＡと取手市で都市農業振興協議会を立ち上げ、出荷者向け講習会、収穫体験や健康相談を行った。今後もソフト面を充実し、地元の物を多くそろえるよう努める。

問　ここ数年の市内での新規就農者数は。

農政課長　レンコン生産販売、農家レストランの２人。

問　新規就農者支援状況をホームページで発信を。

答　立ち上げていきたい。

問　農家の皆さんに育成研修を受け入れていただくなど、新規就農者の受け入れで大切なことは、研修制度の充実。今後の考えは。

答　先進地等を見ながら実施に向けて検討していきたい。

問　農業公社への要望は。

まちづくり振興部長　田植えから管理、稲刈りまで全てを委託する要望がある。

改善を！取手駅西口ロータリー

川又　貞男　議員

問　取手駅西口ロータリー、特にエスカレーターを降りた場所は狭く、送迎車によって混雑する。改善を。

都市整備部次長　交通広場を広げていく。その中で、一般待合車両のスペースも確保できるように検討していく。

問　水戸駅などは20分程度無料で駐車できるスペースを設けている。同様のスペースを。

都市整備部長　停車ではなく、駐車スペースは難しい。ウェルネスプラザ駐車場は30分無料なので、そういった近隣駐車場をお使いいただきたい。

問　現在のタクシー乗り場は、高齢者などには非常に利用しづらい。階段を使わずに乗れる場所に移動を。

都市整備部次長　バリアフリー化された場所を確保しつつ、利便性の高い計画にしていきたい。

取手駅西口

毎週土曜日開設　放課後子どもクラブ

入江　洋一（よういち）　議員

問　市放課後子どもクラブは、働く親に安心を与える。現在の運営状況を伺う。

教育部長　小学生全学年を対象に、市内全15校に設置し、１８４１人の児童が登録している。

　また、運営は全て市直営で実施している。

問　他の市の運営状況は。

スポーツ生涯学習課長　県内には６９１カ所開設され、直営が３６３カ所、公設民営が２４０カ所、民設民営が88カ所。

問　今後の市の運営方針は。

答　直営で運営していく。

問　支援員の数は。

答　１０７人を任用し、ローテーションを組み、常時約84人の方に従事いただいている。

問　毎週土曜日も一日開設を。

答　支援員の配置体制等課題もある。国の基準や条例で定めている年間２５０日以上開設を目指して考えていきたい。

放課後子どもクラブ

消防団に必要備品の整備を

岩澤　信（しん）　議員

問　昨年９月の大雨時も、市職員、消防関係の皆さんは、昼夜問わず活動している。消防団に現場活動に必要な装備や備品の整備を。

消防本部総務課長　今後、救命胴衣を追加支給し、無線機や救助器具を整備していきたい。

問　大雨時の自主防災会の活動を把握しているか。

安全安心対策課長　87の自主防災会には、災害用携帯電話を配備し、市からの情報をいち早くメール等でお伝えする。それにより、地区内の見回りや要配慮者への声掛け、冠水状況などを市の災害対策本部に連絡をいただいている。

問　常総市の鬼怒川決壊を見て、市の今後の水害等への対策は。

総務部長　市の区域を越えた形での避難なども考えていかなければならないと感じている。

妊娠期から切れ目のない支援を

落合　信太郎　議員

問　福祉国家フィンランドで絶大なる信頼を誇る妊娠期から満６歳まで切れ目のない子育て支援制度「ネウボラ」は、日本版ネウボラとして今年度１５０の市町村でスタートが予定されている。育児や子育てに関する全ての支援、相談を一つの場所で行えるようにし、育児ノイローゼや児童虐待の早期発見にもつながる。取手市においても実施を。

健康福祉部長　約３年前から妊娠届の際に記入する妊娠サポート表で支援が必要な家庭の早期発見を行い、保健センターと子育て支援課の保健師が連携して支援につなげている。子育て支援センター、子育て支援課窓口の機能を強化して、取手版ネウボラとする方向で進んでいきたい。

問　ネウボラのポイントは窓口が一つになることで、ここに行けば何でも相談に乗ってくれるという安心感がある。市の考えは。

答　行った先でしっかりと相談できるかが大切なことと考え、専門職を窓口に配置して対応していく。